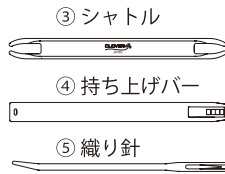
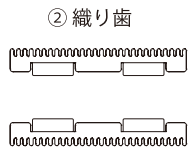
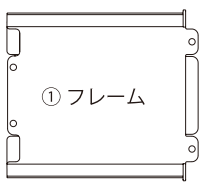


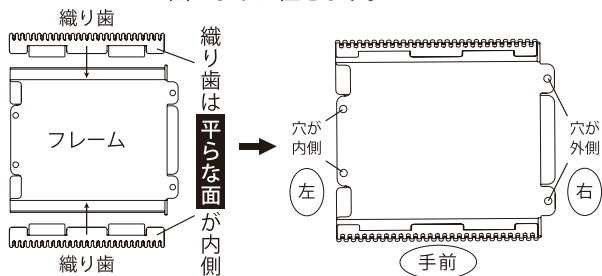
部品説明



- ① フレーム … 織り歯を上下端に取り付けて織り機として使用します。2台横につなげられる構造になっています。
- ② 織り歯 … フレーム1台の上下端に各1個取りつめます。たて糸を通す溝が1個に27本ついています。
たて糸密度 = (20羽 : 10cm 内に20本のたて糸が入ります)
- ③ シャトル … よこ糸を巻き、織り機のたて糸の間に通して織ります。
- ④ 持ち上げバー … 織り機のたて糸を持ち上げて開口部を作り、シャトルを通します。2個横につなげられる構造になっています。
- ⑤ 織り針 … シャトルが通らなくなった時によこ糸を通して織ったり、部分織り、糸を通す時、糸始末に使います。
- ⑥ 織りくし … よこ糸を打ち込む時や整える時にたて糸に沿って使用します。

準備

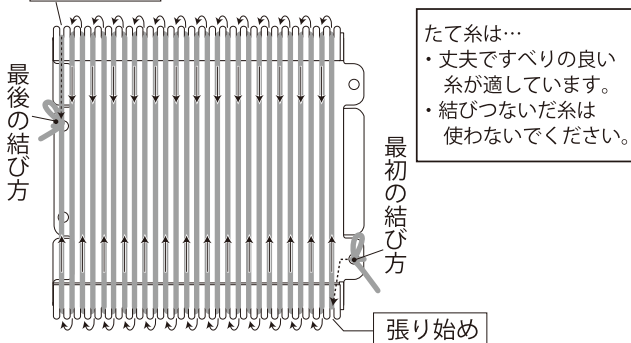
- 1 フレームの上下に織り歯をセットして図のように置きます。



- 2 たて糸を張ります。

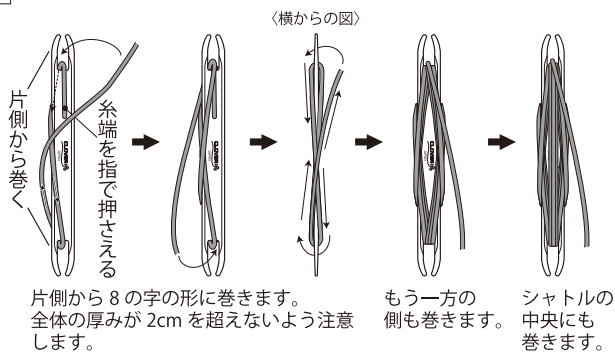
織り機への結び方は裏面の「最初の結び方」「最後の結び方」を参照します。1台で27本のたて糸が張れます。最後の糸端は調整できるように余分(10cm程度)を取っておきます。たて糸の張り具合を手で平で押し、確認して調整します。

張り終わり (図は角型モチーフ20羽)



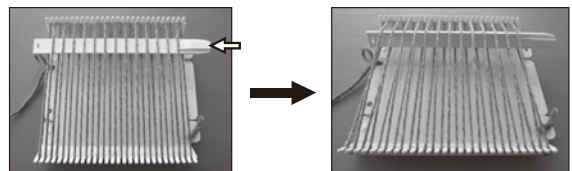
たて糸は…
・丈夫ですべりの良い糸が適しています。
・結びつないだ糸は使わないでください。

- 3 よこ糸をシャトルに巻きます。



- 4 持ち上げバーを偶数列のたて糸に差し込みます。

持ち上げバーを立ててみて、バーが倒れてしまう場合は張り方がきついので糸端をほどきます。糸の張り加減を調整した後、糸端を結び直します。



持ち上げバーを差し込む

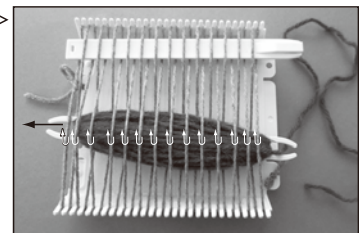
持ち上げバーを立てる

織ります

織り方の説明は「平織」の場合です

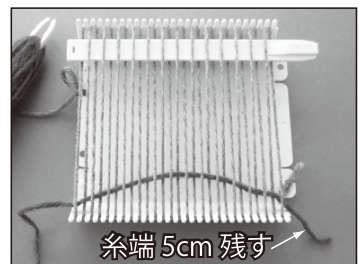
- 5 よこ糸は、織る前に「織り機の幅+15cm以上」多めにシャトルから出しておきます。持ち上げバーは倒しておきます。シャトルの先で右から奇数列のたて糸(持ち上げバーにかかっていない糸)をすくいながら、シャトルを通します。

<1段め>



シャトルの先で奇数列のたて糸をすくって通す

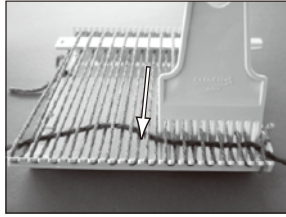
- 6 1段めの糸端は5cm程度残しておきます。よこ糸を入れたら、山形にゆるみを持たせます。



糸端5cm残す

- 7 織りくしの先をたて糸に沿って入れて、よこ糸を手前に打ち込みます。〈1段目が織れました〉

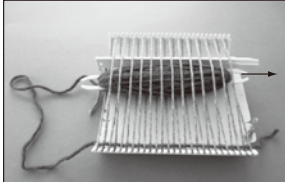
☆よこ糸にモヘアなどを使う場合は織る時に打ち込みすぎないように注意してふんわり織ります。



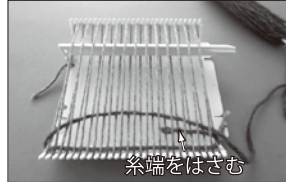
- 8 持ち上げバーを立てると、偶数列のたて糸が開きます。たて糸の間にシャトルを通します。よこ糸にゆるみを持たせます。

織り始めの糸端を3~4cm たて糸の間にはさみこみ、端を上に出します。

<2段目>

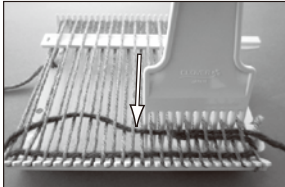


持ち上げバーを立ててシャトルを通す

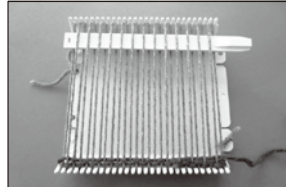


よこ糸は山形にゆるみを持たせる

- 9 持ち上げバーを倒します。織りくしを使い、よこ糸を手前に打ち込みます。〈2段目が織れました〉



織りくしで、よこ糸を打ち込む

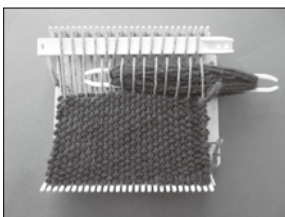


2段目を織ったところ

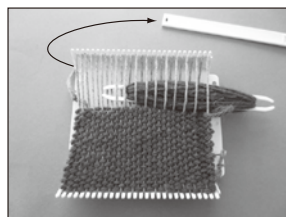
- 10 「シャトルの先で右から左にたて糸を交互にすくって通す」～「持ち上げバーでたて糸を開いてシャトルを左から右に通す」(5～8)を繰り返して織り進みます。

☆途中でよこ糸を替える時は、糸端が新しい糸と3~4cm 重なるようにするか、段の端で糸始末をして次の段から新しい糸で織り始めます。

- 11 織り進んでシャトルが通しにくくなったら、持ち上げバーを取り除き、シャトルでたて糸をすくって織ります。

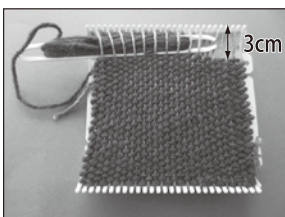


シャトルが通しにくくなったら

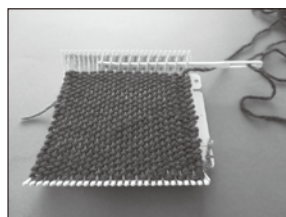


持ち上げバーを取り除く

- 12 織り機の上端まで3cm くらいになったら、シャトルからよこ糸を外して織り針に通し、最後まで織ります。よこ糸の最後の糸端は5cm 程度残してカットします。



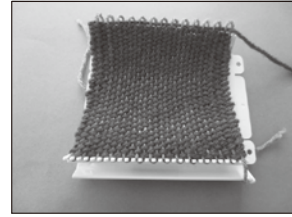
上端から3cm くらいになったら



織り針によこ糸を通して織る

- 13 フレームの左右の穴に結んだたて糸をほどいて織地を織り機から外します。

織り歯と一緒に外すこともできます。

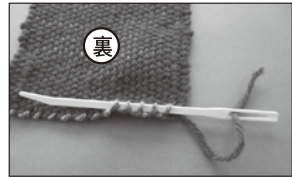


- 14 織りくしをたて糸に沿って織地に入れて均等に整えます。上下のループにもよこ糸が入るように織りくしで整えます。



最終段のよこ糸の始末

- 15 織り針に通し、織地の裏側から前の段のよこ糸に3~5cm 重なるように差し込み、余分な糸をカットします。

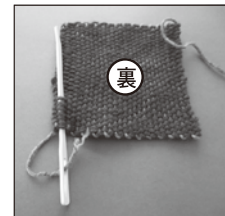


※糸が短い場合は、織り針を先に差し込みます。針の頭に糸を通してから、織り針を引き抜きます。

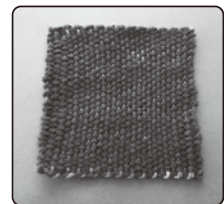
たて糸の始末

- 16 織り針に通し、織地の裏側から隣の列のたて糸に3~5cm 重なるように差し込み、余分な糸をカットします。

※すべりが良い糸を使用して他のモチーフとつなぐ場合は、重なる部分を10cm 程度にします。



できあがり!



たて糸の張り方

クロバーミニ織りはフサの無い角型モチーフ以外に、織り機の裏にたて糸を回して張ると短いフサ付モチーフが作れます。また、たて糸の張り方を変えて長いフサ付モチーフもできます。お好みでアレンジを楽しんでください。

たて糸の長さのめやす…伸縮の少ないたこ糸で計測しています。(伸縮性のある糸の場合、必要な長さは多少短くなります。)

角型モチーフ

たて糸の長さのめやす	20羽 (27本)	4.2m
	10羽 (14本)	2.4m

1枚ならコースターやポケットなどに。角型なのでつなぎあわせるのも簡単です。※つなぎ合わせる場合は、織り上がりのサイズに注意して仕上げます

20羽
1台で27本

最後の結び方

最初の結び方

張り始め

張り終わり

10羽
1台で14本

最後の結び方

最初の結び方

張り始め

張り終わり

右サイドの下の穴に糸を結び、裏側から下の溝→上の溝→隣の溝→下の溝へ。最後は裏側に糸を回して左サイドの上の穴に結びます。

溝をひとつ飛ばしながら、糸をかけるも10羽(10cm間にたて糸10本)の織り機になります。極太糸をたて糸にしたい時などに。

短いフサ付モチーフ

たて糸の長さのめやす	20羽 (27本)	8.2m
------------	-----------	------

コースターにピッタリ。織った後に、織り機の裏に回したたて糸を半分カットして短いフサにします。 ※結ぶ前のフサの長さ 約 6.5~7cm

- 右サイドの上の穴に糸を結び、裏側から下の溝→上の溝に通します。糸を裏側に回し、隣の下の溝→上の溝と、織り機に順に糸を巻きつけ、左サイドの下の穴に結びます。
巻きつける時に糸を引きすぎると、たて糸がきつくなるので注意します。
- 織地を作ります。
- 織りあがったら、織り機から織地を外さずに裏に向けます。フレームのセンターラインに沿って糸をカットし、フサを作ります。
- 織地を織り機から外し、フサを結んでから糸始末します。長さを決めてカットすれば、できあがりです。

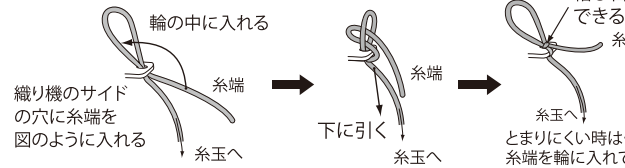
ライン沿いにカット

織り機を裏返したところ

裏に回した糸がゆがんでいないかチェックしましょう

最初の結び方

糸端を引くと簡単にほどける結び方です



長いフサ付モチーフ

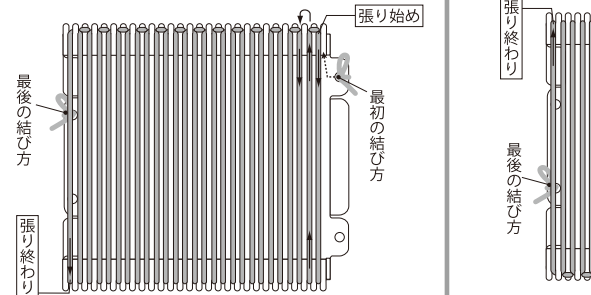
たて糸の長さのめやす 20羽

マフラーやタペストリーに。たて糸を裏に回して張り、片側 ※結ぶ前のフサの長さ 約 13~16cm (糸の種類や張り方)

モチーフ下部にフサをつける方法

- 右サイド上の穴に糸を結び、裏側から右上の溝→下の溝にかけた糸を裏側に回し、最初に通した上の溝から出します。
- 糸を上側の織り歯にかけ、隣の溝から裏側に回し、その下の溝から糸を出します。
- 下の溝^ア→上の溝^イ→隣の溝^ウ→その下の溝の順に糸をかけます。
- 繰り返します。最後の糸を左下の溝にかけたら、裏側から左サイド上の穴に糸を結びます。織り機の裏に回した糸がフサになります。織り機の裏側も見て糸を整えてください。
- 織地を作ります。
- 織り終わったら②で織り歯にかけた糸から外し、織地を織り機から外します。
- フサになる糸は輪になっています。(右上画像参照) 整えて輪の部分のカットし、3~4本ずつ揃えて結びます。長さを揃えてカットします。スチームをかけるとうれやくなります。 ※アイロン熱に弱い素材にはスチームをかけないでください

モチーフ下部にフサをつける場合



簡単にほどける結び方です

結び目ができる

糸通し溝

糸通し溝にかけてから織り歯の溝へ

糸玉へ

とまりにくい時はもう一度糸端を輪に入れて結ぶ

糸玉へ

とまりにくい時はもう一度糸端を輪に入れて結ぶ

糸玉へ

とまりにくい時はもう一度糸端を輪に入れて結ぶ

最後の結び方

糸端を引くと簡単にほどける結び方です。結び直す時も便利です。

輪の中に入れる

織り機のサイドの穴に糸端を図のように入れる

糸端を引ながら調整すると結び目が作りやすい

糸端を引くと簡単にほどける結び方です。結び直す時も便利です。

糸玉へ

とまりにくい時はもう一度糸端を輪に入れて結ぶ

たて糸の長さのめやす 20羽(27本) 8.2m

糸を裏に回して張り、片側に長いフサを作ります。

16cm (糸の種類や張り方で異なります)

たて糸をつなぎながら織る方法

パッチワーク風の織地ができます。「長いフサ付モチーフ」と組み合わせるとマフラーなどが作れます。モチーフのたて糸の通し方によりつなぎ方が2通りあります。 ※細かい連続柄はつなぐ時にピッチが合わないので向きです。

フサを作る方法

縦ずした織地

フサは輪になっています

輪の部分をカット

フサを結びます

先に張った糸

横から見た図

裏から一周

糸玉へ

同じ列の上の溝から出す

横から見た図

裏から一周

糸玉へ

同じ列の上の溝から出す

- ① 角型モチーフ A (糸始末済み) を織り機の手前に置きます。たて糸は右サイド上の穴に結び、糸の先端を織り針に通して右上の溝から下の溝に出します。
- ④ ③で織ったモチーフ B (糸始末済み) をつなぐ場合、たて糸は右サイド下の穴に結び、糸の先端を織り針に通して右下の溝から糸を出します。

モチーフ上部にフサをつける方法

① 右サイド下の穴に糸を結び、裏側から右下の溝→上の溝にかけた糸を裏側に回し、最初に通した下の溝から出します。

糸を裏に回す

横から見た図

表から一周

裏から一周

糸玉へ

先に張った糸

横から見た図

裏から一周

糸玉へ

同じ列の下の溝から出す

横から見た図

裏から一周

糸玉へ

同じ列の上の溝から出す

張り始め

モチーフA

モチーフB

モチーフA

モチーフB

② 糸を下側の織り歯にかけ、隣の溝から裏側に回し、その上の溝から糸を出します。

織り機の裏側へ

横から見た図

裏から一周

糸玉へ

同じ列の上の溝から出す

横から見た図

裏から一周

糸玉へ

同じ列の上の溝から出す

② モチーフ A の右上ループの下から上に織り針を通します。通したたて糸は隣の溝から上の溝に出します。

モチーフA

モチーフB

モチーフA

モチーフB

③ 上の溝→下の溝→隣の溝→その上の溝の順に糸をかけます。

④ 繰り返します。

最後の糸を左上の溝にかけたら、裏側から左サイド下の穴に糸を結びます。

フサの作り方は「モチーフ下部にフサをつける方法」⑥⑦と同じです。

- ③ 上の溝→隣の溝に糸をかけて下の溝に出します。織り機の下側の溝にたて糸を出す時に②のようにしてモチーフ A をつなぎます。織り機下部にモチーフ A がつながった状態で織ります。織ったモチーフを B とします。
- ⑤ モチーフ B の右上ループの上から下に織り針を通します。通したたて糸は右の溝から上の溝に出します。
- ⑥ 上の溝→隣の溝に糸をかけて下の溝に出します。織り機の下側の溝にたて糸を出す時に⑤のようにしてモチーフ B をつなぎます。織ったモチーフを C とすると、C は A と同じたて糸の張り方になるので C に続けてモチーフを織る時は①～③ (A をつなぐ) と同様になります。

モチーフ上部にフサをつける場合

張り始め

張り終わり

最初の結び方

最後の結び方

張り始め

たて糸を張った状態

織りあがり

張り始め

張り終わり

モチーフA

モチーフB

モチーフA

モチーフB

モチーフA

モチーフB

モチーフC

モチーフB

モチーフA

モチーフB

モチーフA